

キ 地域文化事業

市民が仙台・宮城の地域に愛着を深め、この地の文化にますます誇りを持てるよう、生活文化を中心に情報を発信していく事業として実施した。

38	亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす	通年	市内各所	3,501	0	
<p>美術家伊達伸明が仙台の地域資源「亜炭」、「埋木」をテーマに街の魅力を掘りおこす企画。3年目の今回は、4年目に開催される展覧会準備のほか、下記事業を行った。</p> <p>(1)足元スイッチ:今と昔をつなぐ足元の「カケラ」をじっくり読み解き、その時間の蓄積や人々の暮らしに思いを馳せていつもとは違う街の風景を見出す内容。 ①青葉山のスイッチ:もと亜炭鉱山であった東北大学植物園に残る痕跡を辿り、かつての生活風景に思いをはせた。 ②ホテルのスイッチ:広瀬川にホテルがいたかつての夕方の風景についてアンケート調査を行った(H27継続実施)。 ③埋木のスイッチ:「杜の都のクラフトフェア」と連携して埋木の原木のかけらを磨く体験ワークショップ実施したほか、青葉区民祭りや、新浜集会所で出張ワークショップを行った。 (2)おちぼひろい～風景採集と創造:美術家伊達伸明のこれまでの活動を紹介しながら、見慣れたものを新しい視点を持ってみることで気付く風景を楽しんだ。 ①トタン考古学:青葉神社通り周辺を歩いて、建材に使用されているトタンの表情が持つ工芸的な美を鑑賞した。 ②立版古で伝える風景:紙を切り抜いて立て起こすペーパークラフト「立版古(たてばんこ)」の魅力を映像とトークにより紹介した。また「仙台・杜の都のクラフトフェア2014」(紙の特集)の企画展に立版古数点を出品した。 ③建物がウクレレになる話:取り壊される建物の部材でウクレレを制作する活動を、トークと演奏、展示により伝えた。 ④亜炭香報:この企画のテーマに沿った内容の新聞を発行した。 (3)展覧会をつくる～アトリエ公開制作:次年度の展覧会に出品する作品の制作を、ボランティアらとともに日立システムホール仙台のアトリエ内で行った。期間中は毎週土曜日に座談会を行い、訪れた方の美術相談も受け付けた。市民のみでなく、全国から美術関係者も訪れた。 (4)調査活動:展示制作のための調査活動を地域の有志と共に行った(東北大学植物園、愛宕下水力発電所導水トンネル)。東北大学植物園では3月に研究発表会を行った。 <波及効果として> 市民講師により、①原町小学校で亜炭香古学授業が行われた。②柏木市民センターで「埋木みがき」ワークショップが行われた。</p>						
						参加者:1,344人 内訳 (1)453人 (2)547人 (3)286人 (4)58人 来場者:17,046人
39	モノと暮らす	通年	市内各所	677	10	参加料 10
<p>「ものづくり」というキーワードのもとにジャンルを越えたプロダクトや取り組みの紹介を行うことで、それぞれの分野における仙台の役割を認識し、市民とともに「ものづくりを育ててきた街」としての仙台の姿を共有することを目的として、当年度においては下記の取り組みを行った。継続3年目。</p> <p>①企画展『続物語ー仙台・工芸指導所の足跡ー』(5/2～6/8/ライフスタイルコンシェルジュ) 工芸指導所において作られた工芸品の展示や開発され現在に至る製品の展示、また関係者のトークイベントを開催することで、工芸指導所がものづくりや地域文化に果たした役割を現在に結び付けながら市民に紹介する機会を提供した。 ②街歩きツアー(7月、10月) ブルーノ・タウトと仙台・杜の都のクラフトフェアをテーマにした街歩きを開催し(7月・10月)、ものづくりと結びついた仙台について、現場を見ながらセミナーを行った。 ③「仙台・杜の都のクラフトフェア」ボランティアのコーディネーター 毎年10月に開催される「仙台・杜の都のクラフトフェア」で配布する小冊子の制作や広報活動に従事する市民ボランティアを募集し、活動のサポートや連絡調整を行うことで、市民がイベントを支える側になる機会を創出した。</p>						
						①トークイベント参加者:91人 ②41人(2回合計) ③ボランティア数:13人

ク 創造都市推進事業

仙台市と共催し、市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する事業を実施した。

40	地下鉄東西線沿線アートプロジェクト	7～2月	地下鉄東西線沿線	2,687	2,687	受講料 198 市負担金 2,489 (文化庁補助金含む)
<p>①せんだいフォトコンテスト2014～地下鉄東西線*沿線風景～:仙台の地域の魅力を再発見し、写真表現を多くの人に楽しんでもらうことを目的としたフォトコンテスト。2年目の当年度は、地下鉄東西線沿線の地域資源をテーマに写真を公募し、2/20～25に展覧会を、2/22に公開審査と授賞式をせんだいメディアテーク6階ギャラリーで行った ②たまちゃんののっこり寿司ワークショップ「地下鉄にのりまき！」:東西線駅周辺の名物名所の図柄を持ったオリジナル巻き寿司3種類を、アーティスト清田貴代氏(たまちゃん)が考案し、公募による参加者と作品を制作した。8/24、11/9、12/7の3回、それぞれ七夕かざり、こけし、アンモナイトの図柄で制作。</p>						
						①応募者:59人 展覧会入場者:1,250人 公開審査観覧者:80人 ②参加者:69人

41	ワークショップ「となりの子育て」	6～10月	のびすく泉中央 他	2,064	2,064	受講料等 14 市負担金 1,050 助成金 1,000
	演出家の阿部初美氏を進行役とし、演劇の手法を用いて結婚・出産・子育てについて考えるワークショップを実施した。俳優やダンサーなど表現活動を行っている人が連続して参加するコースを全9回、テーマに関心のある人が気軽に参加できる一回完結型の単発コースを全10回行い、参加者が多様な世代の人々と対話を重ねながらそれぞれが持つ悩みや思いを共有し、表現した。成果発表会はメディアテークにて開催し、事前アンケートから集めた言葉や文章の壁面展示、ダンサーによる即興パフォーマンスなどを実施した。					参加者:連続コース7人、単発コース:のべ87人、成果発表入場者:838人
42	地下鉄駅コンサート	9/27・28 10/4・5	地下鉄駅構内	881	881	市負担金 881
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄駅構内で開催した。					出演者:30団体194人 来場者:4,430人
43	RE:プロジェクト	通年	市内各所	1,732	1,732	受講料 32 市負担金 1,700
	東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、そこに暮らしてきた方々から地域に根付いてきた暮らしの話を聞き、地域の記憶をつなぐ取り組みとして、以下の活動を行った。 ①『RE:プロジェクト通信』の発行 地区ごとに取材を行い、その地域固有の暮らしや文化を住民の言葉からあぶり出し、市民にフリーペーパーにして届けた。取材・執筆にあたっては西大立目祥子氏(ライター)と武田こうじ氏(詩人)に引き続き業務を依頼して進めた。各号7000部発行。 ・第10号(若林区種次地区)／第11号(宮城野区南蒲生地区)／第12号(宮城野区和田地区) ②『オモイデゴハン』の開催 地域で採れた野菜を使い、その地域で昔から食べられてきた食事を住民が振る舞うプログラム。食事の背景にある地域文化の姿を東北学院大学の学生とともに聞き取りを行うことで可視化し、さまざまな角度から「その土地ならではのオモイデゴハン」を楽しむ場を提供することができた。前年度までは若林区三本塚地区との連携で取り組んできたが、平成26年度においては新たに若林区荒浜地区の市民団体とも連携することで、「おらほのオモイデゴハン」として三本塚地区との共同開催を実施することができた。 【三本塚・夏のオモイデゴハン】9/6 /三本塚集会所 【おらほのオモイデゴハン】2/19 /東北ろっけんパーク ③『記録展』の開催 『RE:プロジェクト通信』の取材で語られた地域住民の言葉をもとに地域の姿をたどる展示。平成26年度においては、仙台市役所市民ギャラリーにおける主催展示だけでなく、仙台文学館において展示と朗読パフォーマンスを組み合わせて開催する等、「記録展」による発信の幅を広げた。 【詩の文学館・特別編(会場:仙台文学館)】(展示)6/18～7/6 (朗読)7/6 /ゲスト:武田こうじ(詩人)、渡部ギョウ(俳優) 【『RE:プロジェクト』記録展】2/3～27/仙台市役所 ギャラリーホール					②来場者:約350人 ③参加者(7月朗読のみ):51人
ケ 育成・普及事業						
主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供した。						
44	芸術家派遣事業	8月～2月	各学校・地域	0	0	
	文化庁から「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業実行委員会」が2,121万円の事業を受託し、学校・保育所等の子どもたちに鑑賞や体験の機会を届けた。実施校(園・所)を公募し232件の申し込みから166か所で実施した。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行った。また、仙台市の負担金により、派遣芸術家を対象とした研修会「アウトリーチ・ラボ」を実施し、基本的な心構えや考え方を身に付けるとともに、活動分野を超えた交流によりプログラム作りを考えた。					学校、児童館、保育施設 166か所
45	アーティストマネジメント事業	通年	各学校・地域	1,019	1,164	その他 1,164
	子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせ、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行った。 ①大和町(小野・落合・吉岡・鶴巣・宮床・難波・吉田小学校)9/2・3・8・9・10・12:バリ舞踊ワークショップ ②大郷町(大郷小学校)11/10～12:韓国打楽器ワークショップ ③クリスマスロードクリスマスコンサート12/14・21・23					参加者: ①504人 ②411人 ③570人

コ 出版及び作品収集事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。						
46	仙台文学館選書編集・販売等	通年	—	0	71	刊行物販売 71
文学館の選書として出版し後世の人々にその作品の魅力を伝えていくことを目的とし制作・出版した選書等の販売を継続するとともに、当年度は仙台の児童文化運動の草分け的存在でもある詩人、スズキヘギの詩作品を収録する選書制作を進めた。雑誌や本に収録されているもののほかに、未発表のメモや原稿などの作品も収め、巻末には年譜と解説を収録するため、当年度は、ご遺族の元にある自筆原稿、草稿、創作メモの洗い出しと作品の選定作業を行った。						
47	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	11	刊行物販売 11
「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、「仙台戯曲賞シリーズ」を継続販売した。販売価格は1,000円(税別)。						
48	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	1	4	刊行物販売 4
事業団20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」中、井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、20年度末に出版したブックレットの継続販売を行った。						
49	東日本大震災をめぐる文学作品収集	通年	—	18	0	
24年度から行っている、東日本大震災以後に発表された、新聞歌壇・俳壇・柳壇などに掲載された震災を詠んだ作品、仙台ゆかりの作家たちによる震災関係の文章や資料を継続して収集した。						
サ 広報事業等						
50	広報事業	通年	—	4,928	4,928	市補助金 4,928
文化情報誌『季刊まちりよく』の発行(年4回)を継続。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス件数:年77,000件)したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。						
51	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,041	1,523	友の会会費 1,523
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月刊情報紙『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業へのチケット先行サービスの提供等を行った(年会費1,000円)。						
52	事業団事業全体にかかる調整、評価等	通年	—	3,734	0	
事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。						
(2)コンクール運営事業						
ア 仙台国際音楽コンクール事業						
平成28年に開催する第6回仙台国際音楽コンクールの準備を行った。						
53	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	7,275	7,275	市負担金 7,275
コンクール事務局の運営を行った。						
54	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	1,886	1,886	市負担金 1,886
組織委員会、運営委員会等を開催した。						
55	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,046	1,084	刊行物販売 1,084
第6回コンクール審査委員を確定した。 第6回実施要項を確定した。						
56	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	8,632	8,632	市負担金 8,632
第6回コンクール出場者募集に関する広報活動を行った。 第5回優勝者の副賞、関連事業等の広報活動を行った。						

57	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	1,359	1,359	市負担金 1,359
	第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティアリーダー会議の開催 ②会場運営サポート:副賞コンサート等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:外国語等の勉強会、交流サロンの運営内容検討等 ⑤ホームステイ受入:受入れ制度の検討、意見交換会等 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:市民と入賞者の交流イベントの企画運営、市民参加型ボランティア研修の企画運営					
58	第5回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	12,474	12,474	入場料等 2,211 市負担金 9,063 助成金 1,200
	第5回コンクール優勝者の副賞として、東京でリサイタルを開催した。併せて国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行った。また、平成27年度に実施する副賞の準備を行った。					
59	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	仙台市内各所	2,256	2,256	市負担金 2,256
	・コンクール入賞者による「学校訪問ミニ・コンサート」を開催した。 ・コンクール入賞者と学生・市民オーケストラの共演の機会を設けることにより、音楽振興と交流を図った。 ・クラシック音楽鑑賞の普及と若い音楽家の育成及びコンクールのPRを目的に、「街かどコンサートシリーズ」を開催した。					入場者数:2,572人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

60	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台	19,954	19,954	受講料・入場料等 5,050 市負担金 14,904
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。 ・演奏会を2回開催した。					団員定員:120人

(4)演劇系練習施設運営事業

61	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	26,088	26,088	利用料等 6,908 市補助金 19,180
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援した。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。					利用者:42,655人(内訳 10-BOX:39,208人、 能-BOX:3,447人)

(5)芸術文化受託事業

(単位:千円)

62	市制施行125周年記念コンサート	7/7	イズミティ21	4,054	4,054	市受託料 4,054
	仙台市の市制施行記念式典の一環として仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第2位の成田達輝氏を迎えた。					入場者:1,290人
63	震災の記録・市民協働アーカイブ事業 (震災等緊急雇用対応事業)	通年	メディアテーク	17,526	17,526	市受託料 17,526
	大震災を受け、復旧、復興に向かう仙台のまち、ひと、動きを、市民、専門家、スタッフが協働して記録・発信し、市民共有の財産として保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営を行った。具体的には、①震災以降の仙台地域の状況を写真や映像で記録。②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じて配信した。					雇用者 4人
64	ミュージアムの魅力発信企画事業 (震災等緊急雇用対応事業)	通年	メディアテーク	10,309	10,309	市受託料 10,309
	仙台・宮城ミュージアムアライアンス事業に関する記録や資料を作成するとともに、ミュージアム施設での情報収集を行い、情報サイトでの公開を行った。6年目となる平成26年度は情報誌の発行、ミュージアム施設利用啓発イベントであるSMMAミュージアムユニバース、複数館による特別企画を実施するクロスイベントや研修を行った。					雇用者 3人

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位;千円)

ア 仙台文学館普及啓発事業

65	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	977	977	市補助金 576 その他 401
	<p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、より深い文学の魅力を伝えた。</p> <p>①特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」関連:小池館長と穂村弘(歌人)との対談、佐佐木幸綱(歌人)による講演会、地元歌人による講座、地元演劇人の啄木日記を読む展示室劇場などを実施した。</p> <p>②「こども文学館 えほんのひろば かこさとしの世界」関連:市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、絵手紙教室を開催した。</p> <p>③特別展「いわむらかずおの世界」関連:関係者による講演会、いわむら作品の読み聞かせ、また文学館の敷地を使ったスケッチワークショップや自然観察会などを開催した。</p> <p>④企画展「俺達の国語ば可愛がれ-井上ひさし「方言」へのまなざし 井上ひさし資料特集展Vol.4」関連:展示室内で「花石物語」「吉里吉里人」のリーディングイベント、読書会を実施した。</p>					参加者: のべ1,350人
66	ことばの祭典— 短歌・俳句・川柳への誘い	6/21	仙台文学館	448	448	市補助金 448
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」、小池光館長賞を選出した。					参加者:170人
67	文学講座、講演会等	通年	仙台文学館	1,988	2,195	受講料2,195
	<p>文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどにより、文学の振興を図る目的で当年度は下記のとおり開催した。</p> <p>①小池光短歌講座:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回開催した。</p> <p>②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催した。</p> <p>③仙台朗読祭、詩の文学館などリーディングイベント:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読する「仙台朗読祭」や、地元詩人によるポエトリーディングを開催した。</p>					参加者: ①799人 ②2,176人 ③181人
68	教育との連携事業	通年	仙台文学館	297	297	市補助金 297
	県内高等学校の文芸部の活動「高文連」を支援したほか、教育センター主催の「機関研修」に加わり、図書室や国語を担当する教員への研修機会を提供した。そのほか小中高を通しての調べ学習への協力や受入を随時行った。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを継続して配布した。					
69	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					13件 710人
70	文学館報の発行	通年	—	1,076	750	市補助金 750
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌(年2回)を継続して発行した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
71	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナーとして運営。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。特に、当年度初めての試みとして、近隣の児童館と連携して児童館主催の読み聞かせの事業も行い、好評を得た。					
72	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
	両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会・読書会の開催、会報の発行などの事業を行った。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施した。					
73	出版物等の販売	通年	—	0	119	刊行物販売 119
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品や、これまでに制作した一筆箋なども館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位;千円)

ア せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

74	対話の可能性 (1)対話のための発信事業	通年	メディアテーク	16,700	16,700	入場料 301 市補助金 5,899 助成金 10,500
	<p>・展覧会「記録と想起・イメージの家を歩く」:震災のアーカイブはどのように活かされるのかを主題としアートとの融合を図った展覧会を開催した。わすれん！に集められた映像記録を活用し、わすれん！で活動してきたアーティストや市民が展示に参加した。</p> <p>・上映会「フィクションの境目」:「対話の可能性」そして「記録と想起」というテーマに通ずる映像作品を上映した。また、映像音響ライブラリーと連携し、シアター上映作品とライブラリー所蔵作品を関連付け、映像のパブリック・アーカイブの構築に努めた。</p> <p>・情報発信:26年度の事業の記録と共に、仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフィユ」の第七号を発行した。</p>					展示:5,944人 上映:148人 ミルフィユ:1,500部
75	対話の可能性 (2)対話の場づくり協働事業	通年	メディアテーク	3,187	3,187	市補助金 2,187 助成金 1,000
	<p>平成23年度震災後に立ちあげた、治癒、交流、再活性のための「広場」事業を継承し、1階オープンスクエアのほか、7階スタジオも活用しながら、人が集い語ることのできる場をつくった。</p> <p>・考えるテーブル:黒板を模した家具を活用し、誰もが参加可能な公開会議でもあり、市民の主体的な社会参加を文化面から活性化していく場を運営した。</p> <p>・スタジオ情報交流:年間を通じ、市民や市民グループと協働し活動の成果をスタジオラウンジで展示した。また、フリーペーパーを作成することによりメディアテークの活動について市民への周知と理解を深めるとともに、さらなる市民団体の誘致を図った。また、1年間の活動の成果として「としょかん・メディアテークフェスティバル」を開催し、活動の様子や成果を広く発信した。</p>					考えるテーブル: 1,163人 としょかんメディア テークフェスティバ ル:1,988人
76	地域文化メディア活性 (1)地域文化デジタルイズ	通年	メディアテーク	1,021	1,021	市補助金 1,021
	<p>地域の生活文化資料を市民協働によりデジタルデータとして記録・編集し、保存・公開していく事業をおこなった。市民ディレクターによって制作された映像を、ケーブルテレビやウェブサイトで発信する①「ことりTV」、みやぎ民話の会と共に行う民話の映像記録活動②「民話 声の図書室」、出处不明な古い写真や映像資料を展示公開しながら来場者に情報を募ることで撮影場所や時期を確定し、コレクションする③「どこコレ?ーおしえてください昭和のセンダイ」などを実施した。</p>					①122人(映像24本) ②DVD配架 4本 ③展示68枚(場所確定:34枚)351枚の付箋
77	地域メディア文化活性 (2)バリアフリーデザイン	通年	メディアテーク	684	684	入場料 16 市補助金 568 助成金 100
	<p>社会の中のさまざまな「バリア」に目を向け、課題を共有していくための取り組みをおこなった。目や耳の不自由な方に限らず、あらゆる人々が、メディアテークを通じて多様な活動に参加できる環境を提供すること目指し、音声解説・日本語字幕・託児つき上映、手ではなすおはなしの会、要約筆記サービスなどを実施した。</p>					309人
78	館長発信事業	通年	メディアテーク	914	914	市補助金 914
	<p>プレゼンターがそれぞれに好きな映画をアドリブで紹介しあい、誰が会場の関心を一番集めるかを競う①「シネバトル」を開催し、館長はオブザーバー、司会として参加した。また、展覧会「記録と想起」開催にあたり、②レセプションやギャラリートツアーなどの関連企画を実施し、展覧会の企画趣旨を広く発信し、わすれん！参加者、関係者、鑑賞者間の交流および互いに理解を深める機会を提供した。</p>					①282人 ②106人
79	施設活用推進・地域文化連携事業	通年	メディアテーク	2,397	2,397	市補助金 2,274 刊行物等販売 123
	<p>・施設活用推進 各種団体との協働やネットワークを通じ、地域におけるメディアテークの役割を担うとともに、来館者調査などの事業評価、次年度の企画準備等さらなる価値向上に努めた。</p> <p>・地域文化連携 ①仙台建築都市学生会議、②仙台短篇映画祭実行委員会、③Book!Book!Sendaiなど、主体的に活動する市民グループとの対話を通じて地域訴求力の高い協働事業を行った。事業展開は、スタジオ、シアター、ギャラリー、オープンスクエアや外部との連携を通じた街なかなど多岐に渡り、多くの参加者を巻き込むことができた。</p>					①3,213人 ②2,295人 ③958人

80	重点政策事業 わすれん！ 報告書出版	通年	メディアテーク	2,758	2,758	市補助金 2,758
	平成23年度より取り組んできた、東日本大震災の記録・市民協働アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動記録を英語に翻訳・発行し、第3回国連防災世界会議に参加する海外からの関係者にも配布することで、「わすれん！」で得られた知見を広く国内外に発信した。					発行部数 5,200部
81	重点政策事業 卒業設計日本一決定戦 国連防災会議賞	通年	メディアテーク	550	550	市補助金 550
	国連防災会議の開催にともない、卒業設計日本一決定戦の中で「国連防災世界会議仙台開催実行委員会会長賞」を設け、公開の場で建築家などにより審査を行い、優れた作品に授与した。また、大会の内容や、運営団体である建築都市学生会議の復興支援活動などを広く紹介するため、英語に翻訳したリーフレットの作成・配布や、パネル展示などを行った。					パネル展示 4,038人

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位;千円)

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

82	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	61,940	61,940	市指定管理料 61,940
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					
83	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	101	101	市指定管理料 101
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、被災地関連展示「若林区六郷・七郷の暮らし」の中で、震災前の写真や農具を紹介した。					入館者:36,435人

ア 特別展・企画展及び関連事業

84	特別展「餅・モチ～ハレの食～」及び関連事業	11/15～4/12	歴史民俗資料館	1,710	1,710	市指定管理料 1,710
	おめでたい時や暮らしの節目などハレの日の食材となることが多い食品である餅(もち)や作物である糯(もち)から作る赤飯などに注目しつつ、仙台とその周辺で伝統的に見られる多様なハレの日の食文化と、年間を通してさまざまな機会にモチ食を楽しんできた背景について紹介した。併せて餅つき体験や講座、学芸員による展示解説を行った。また、展示に合わせて図録を作成した。					観覧者:9,364人
85	企画展「戦争と庶民の暮らし4」及び関連事業	6/28～11/3	歴史民俗資料館	1,428	1,428	市指定管理料 1,428
	戦争と庶民のかかわりについて、戊辰戦争から、日中戦争、アジア太平洋戦争、米軍占領期頃までに関する実物資料を通して、戦前・戦中・戦後の移り変わりを仙台地方を中心に紹介した。また会期中には軍事郵便、戦時期の雑誌などの4回に分けたテーマ展示を開催し、戦時資料の収集活動の成果を広く公開した。さらに研究者による6回の関連講座や榴岡公園周辺の歴史探訪、子ども向けには紙芝居や読み聞かせなど多岐にわたる普及活動を行った。刊行物としては、展示に合わせて図録を作成した。					観覧者:11,920人
86	企画展「運ぶ ～背負う・担ぐ・提げる～」及び関連事業	4/26～6/15	歴史民俗資料館	130	130	市指定管理料 130
	さまざまな運搬方法や、数多くある運搬具の中から、地域の人々が人力や畜力を使って物を運んだ道具を展示し、人々の知恵と工夫を紹介した。また、「運搬具を使って運んでみよう」などの体験のイベントや講座を行った。					観覧者:10,789人
87	企画展「仙台絵ハガキ時間旅行」及び関連事業	7/19～9/28	歴史民俗資料館	134	134	市指定管理料 134
	仙台七夕まつり、青葉まつり、仙台駅前、東一番丁、県庁、市役所、仙台城跡周辺等の仙台名所、松島など、絵はがきに見る今昔を訪ね、明治時代以降から現代にいたる暮らしと街並みの移り変わりを紹介した。関連行事として、「絵はがきコレクションにさわってみよう、みてみよう」を行った。					観覧者:3,018人

88	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	162	162	市指定管理料 162
	<p>①資料館サポーター養成講座(6月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで上・下半期の2回コースで、参加者には資料館の事業活動や資料の活用方法、民俗文化財や歴史資料の意義などを伝え、参加者全員がサポーターとしての活動を始めた。</p> <p>②子ども講座(8月・3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙芝居の講座を開催した。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/26・27・29、5/3～6):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験した。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習の場を設けた。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/18):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p>					<p>①9人</p> <p>②22人</p> <p>③9,621人</p> <p>④323人</p> <p>⑤32人</p> <p>⑥28人</p>
89	資料館だより発行、広報等	通年	歴史民俗資料館	145	145	市指定管理料 145
	資料館だよりや資料館の活動チラシを作成し、学校、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習を促した。					
90	歴史民俗資料館 資料の収集保管	通年	歴史民俗資料館	2,200	2,200	市指定管理料 2,200
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集第13冊」をまとめ刊行した。					
91	歴史民俗にかかる調査研究と報告	通年	歴史民俗資料館	616	616	市指定管理料 616
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書第33集」にまとめ、刊行した。					
92	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験した。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。					
93	次年度企画展準備	通年	歴史民俗資料館	253	253	市指定管理料 253
	翌4月から始まる企画展準備として広報用チラシの印刷や造作物作成を行った。					

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

94	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	地底の森ミュージアム	77,145	77,145	市指定管理料 77,145
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。					
95	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	地底の森ミュージアム	13,082	13,082	市指定管理料 13,082
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の屋外展示を総合的に行った。					入館者:35,376人
ア 特別展・企画展						
96	特別企画展「ザ・ハンター 狩猟の道具」	7/11～9/15	地底の森ミュージアム	2,256	2,256	市指定管理料 2,256
	狩猟が生活の大きなウェイトを占めていた旧石器時代から弥生時代にかけての狩猟方法・狩猟具について紹介し、食糧獲得のための歴史的な背景にせまった。関連イベントとして、「狩猟具から読み解く人類の歴史」と題する記念講演会を開催した。さらに、市内で活動している劇団員が旧石器時代の狩人に扮して館内及び野外の「氷河期の森」に出没して入館者と触れあう「狩人出現!」や「狩人パフォーマンス」を計13回実施した(「狩人出現!」:8日、「狩人パフォーマンス!」:5日の合計13日)。					観覧者: 8,346人 (記念講演会56人)
97	企画展「仙台の遺跡③ 焼きもの一大産地」	4/11～6/22	地底の森ミュージアム	52	52	市指定管理料 52
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている中から、身近な出土品をシリーズで紹介するもので、今回は仙台市北部の台原から小田原あたりで発見されている窯跡を取り上げ、出土資料とともに紹介した。関連講座として、焼きもの産地ツアー「古代の窯跡めぐり」、埴焼づくり教室「埴焼のマイカップをつくらう」などを実施した。					観覧者:10,222人 (窯跡めぐり26人) (埴焼づくり教室20組27人)

98	企画展「科学で読み解け！環境絵巻－氷河期の森から縄文の森へ－	10/10～12/21	地底の森ミュージアム・縄文の森広場	114	114	市指定管理料 114
<p>旧石器時代と縄文時代の環境をテーマに、富沢遺跡で発見された植物の遺存体と、山田上ノ台遺跡で発見された旧石器時代の石器、縄文時代の遺物を中心として展示を行った。今回の展示は自然環境を中心に、富沢遺跡で発見された針葉樹の実物・プレバラート・種実とともに、復元された「氷河期の森」から採取された現代の種実を比べて展示し、さらに山田上ノ台遺跡で復元された「縄文の森」の植物の葉や実とともに県内で出土した縄文時代の種実を展示しながら旧石器時代と縄文時代の森の環境変化について紹介した。関連講座として、「氷河期の森から縄文の森へ～遺跡と環境の秘密～」と題した講演会と富沢遺跡から出土した樹木の樹種同定のワークショップを実施した。</p>						観覧者：7,283人 (講演会29人、ワークショップ9人)
99	企画展「地底の森ミュージアム2014・ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2014」	1/20～3/15	地底の森ミュージアム・縄文の森広場	18	18	市指定管理料 18
<p>富沢遺跡保存館で行われた平成26年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等について紹介した。併せて「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2014」写真展を紹介した。</p>						観覧者：3,090人
100	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	地底の森ミュージアム	514	514	市指定管理料 514
<p>①考古学講座(11/22、1/17)：考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介し、回公募による一般市民を対象とし2回シリーズで実施した。 ②体験学習(通年)：体験を通して古代人の技術を学んだり、石器づくり体験教室や石器の使用体験を実施する(親子体験教室：1回、一般対象教室：1回)。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中に手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施した。 ③たのしい地底の森教室(通年)：館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会を行った。ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中・12月のイベント開催期間を除く毎月2回日曜日に合計13回の教室を開催した。 ④館長講座：一般を対象に、その都度テーマを設定し、講座や見学会を実施する。4月・7～11月・3月の第1日曜日に7回の講座を開催した。 ⑤地底の森フェスタ2014(10/26)：屋外を会場とし自由参加の形態で実施する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行った。ボランティア会とともに企画実施した。 ⑥利用学習事業(通年)：小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として保存館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、次年度の活動に活かしていくため、実践集録を作成・Web公開。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。 ⑦市民文化財研究員育成(通年)：考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめた。 ⑧ボランティア育成(通年)：市民文化財研究員修了生の中の希望者5名及び公募による申込希望者7名に、展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 ⑨地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年)：博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援した。 ⑩地域や大学との連携：地域や大学との連携強化を図りながら、地域のイベントである太白区民まつりなどに企画したり、学生ボランティアとの協働事業を行った。 ⑪博物館実務実習：11月～12月に博物館学芸員資格取得を目指す大学生を対象に受入れ、5日間の実務実習を行った。 ⑫職場体験：市内中学校からの要請に応じて、4月～3月に中学校の生徒を受け入れて職場体験を行った。</p>						<p>参加者： ①67人 ②延べ3,075人 ③延べ164人 ④延べ165人 ⑤893人 ⑥26校1,607人 ⑦－ ⑧133人 ⑨－ ⑩－ ⑪4大学9人 ⑫9校29人</p> <p>①～⑫延べ6,142人</p>
101	運営懇談会	7/17、2/25	地底の森ミュージアム	0	0	市指定管理料 0
<p>当館の活動を広く紹介して理解と協力を得るとともに、貴重な意見やニーズを聴取し、当館の運営及び事業に活かすことを目的に、また学校や地域との連携事業を模索する場として、富沢遺跡保存館近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席頂き、懇談会を2回開催した。</p>						
102	研究報告の刊行	通年	地底の森ミュージアム	176	176	市指定管理料 176
<p>富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、以降の博物館運営に役立てた。</p>						
103	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	地底の森ミュージアム	1,019	1,019	市指定管理料 1,019
<p>4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。特別企画展については展示図録を刊行した。</p>						
104	資料の収集・保管	通年	地底の森ミュージアム	0	0	市指定管理料 0
<p>仙台市教育委員会が所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。</p>						

105	遺構の各種分析調査	通年	地底の森ミュージアム	403	403	市指定管理料 403
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。併せて保存処理検討会を1回開催した。						
106	次年度事業準備・その他	通年	地底の森ミュージアム	223	223	市指定管理料 223
平成27年度の特別企画展とその他の企画展や体験教室開催向けの資料調査及び特別企画展についての出展交渉を行った。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

107	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	40,274	40,274	市指定管理料 40,274
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。						
						利用者30,204人
108	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	15,420	15,420	市指定管理料 15,420
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保った。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。						
						有料入館者4,158人 無料入館者16,218人
109	企画展「縄文人と動物のかかわり」	通年	縄文の森広場	42	42	市指定管理料 42
県内の遺跡の調査から明らかとなった縄文時代の人々が動物とどのように関わり暮らしてきたのか、最新の成果を含めて紹介した。3か月毎に主たる紹介遺跡を変えて以下の企画展示を行った。						
①「縄文人と動物のかかわりー大野田遺跡と土偶」:4/18～6/29 55日間開催						
②「縄文人と動物のかかわりー名取川上・中流域のくらし」:7/11～9/21 61日間開催						
③「縄文人と動物のかかわりーたべる・つかう」:10/17～12/21 55日間開催						
④「縄文人と動物のかかわりー縄文人と動物」:1/23～3/22 49日間開催						
						観覧者: ①8,824人 ②3,782人 ③3,167人 ④2,720人
ア 講座等						
110	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/19・ 26、11/1、 2/7・14・21	縄文の森広場	831	831	市指定管理料 831
季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地元住民による演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施した。						
						参加者:①春705人 ②夏633人 ③秋176人 ④冬447人 計1,961人
111	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,960	2,960	市指定管理料 2,960
①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を行った。						
②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。						
③体験講座:「週末体験講座」をはじめとした土器づくり・石器づくりや発掘体験などの各種体験教室を開催した。						
④特別イベント:各季節の長期休業期間にあわせて誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。						
						体験者:15,140人
112	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	166	166	市指定管理料 166
各種体験活動について指導や展示説明を補助するボランティアスタッフを対象とした、より分かりやすい説明や体験活動の補助を行ってもらうための研修事業。当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて、「ボランティア育成講座」を年9回開催した。内1回については、富沢遺跡保存館と連携して福島県方面の合同視察研修を実施した。						
						育成講座修了者5人 スキルアップ者8人 両館合同研修参加者53人
113	縄文講座	12～2月	縄文の森広場	140	140	市指定管理料 140
「縄文人と動物の関わり」というテーマで、縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会を、毎回公募100名を対象に以下の内容で開催した。						
①「縄文人と動物の関わりー狩猟・漁労・家畜ー」(12/21):国立歴史民俗博物館名誉教授 西本豊弘氏						
②「縄文時代の食べ物ー鳥とクワを中心にしてー」(1/25):名古屋大学総合博物館准教授 新見倫子氏						
③「狩りの文化からみた縄文人ー民族考古学の視点からー」(2/15):東北芸術工科大学教授 田口洋美氏						
						受講者: ① 70人 ② 62人 ③ 82人 計214人

イ 学校との連携事業						
114	利用学習事業	通年	縄文の森広場	1,332	1,332	市指定管理料 1,332
小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。						38校2,456人
115	学校教育との連携	8・10～12月	縄文の森広場	9	9	市指定管理料 9
学校教育との連携を促進を目的として次のような研修会や受け入れを行った。①市内小・中学校の教職員を対象に、当館の概要や体験活動事業を周知するための教職員利用研修会の実施。(8月)②学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受け入れ。(10～11月)③近隣中学校からの職場体験の生徒受け入れ。(10～12月)						①4人 ②2人 ③3校11人

ウ 地域との連携事業						
116	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
当館の活動を紹介し理解を得ると共に、意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的として、縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席していただき懇談会を開催した。また地域と連携した今後の事業について模索する場とした。						
117	縄文の森広場子ども友の会の育成	通年	縄文の森広場	10	10	市指定管理料 10
実生からの育苗や植樹等を行い、縄文の森の植生を育てるなどの活動を行った。夏のコンサート時に併せて「子ども植樹まつり」を開催した。						植樹まつり参加者:28人

エ 調査研究事業						
118	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	99	99	市指定管理料 99
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。						
119	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。あわせて、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。						
120	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
当館が実施している各種事業の内容深化や新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同でミニ企画展の展示模型を作成するなど、調査研究活動を実施した。						
121	平成27年度ミニ企画展「(仮称)縄文人の生活」資料調査	通年	縄文の森広場	3	3	市指定管理料 3
平成27年度の企画展の内容や、展示と連動した体験活動を検討するために資料調査を実施した。						
122	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書などを含めた資料の収集を行った。						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

123	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	171,703	171,703	市指定管理料 171,703
文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。						入館者:67,059人 収益事業を含む
124	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	5	5	市指定管理料 5
明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。平成26年4月から9月まで放映されたテレビドラマで評判となった歌人・柳原白蓮や、仙台にゆかりの深い世界的工芸家・ブルーノ・タウトに関する特集展示を行った。						

ア 特別展・企画展						
125	特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」	4/26～6/29	仙台文学館	4,130	4,130	市指定管理料 4,130
	2012年に没後100年を迎え、その作品はいまもって人々に受け継がれ新鮮な感動を呼び起こす石川啄木をテーマとした展示。石川啄木記念館、日本近代文学館などに協力を仰ぎ、その短くも濃密な生涯と、鮮烈な文学世界を貴重な自筆資料からたどり、紹介した。					観覧者:3,222人
126	夏休み企画「こども文学館えほんのひろば～かこさとしの世界 おはなし・かがく・あそび」	7/17～8/24	仙台文学館	2,144	2,144	市指定管理料 2,144
	夏休み恒例の企画として、絵本を自由に読める「絵本の部屋」や、市内で活動するグループによるお話し会・読み聞かせワークショップ等を開催した。また、3階の企画展示室では「だるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」などの作品で知られる、かこさとしの絵本の世界を展示。科学者でもある作者の「かがく」や「あそび」をテーマにした作品も紹介し、物語と想像の世界を楽しんでもらい、多くの家族づれに好評を得た。					観覧者:8,455人
127	特別展「いわむらかずお絵本原画展」	9/6～11/3	仙台文学館	4,845	4,845	市指定管理料4,845
	「14ひきのねずみ」のシリーズで知られる絵本作家・いわむらかずおの、自然と生き物の姿を描いた原画にこめられた、命への優しく温かなまなざしを紹介。国内のみならず海外でも翻訳され、愛読されている世界的な人気絵本の原画に親しみ、物語の世界の深さと楽しさを多くの世代の人たちに味わってもらう展示とした。親子二代にわたる観覧者も多く、好評を得た。					観覧者:7,040人
128	企画展「大佛次郎・大池唯雄往復書簡展」	11/22～1/25	仙台文学館	745	745	市指定管理料 745
	当館所蔵の、大佛次郎全集等に未収録かつ未公開資料である、大佛次郎が大池唯雄に宛てた書簡60点を含む、大佛・大池の往復書簡を核に据えた展示。併せて二人の作家の足跡、そして当時の時代背景などを、大佛次郎記念館の協力を仰ぎ展示・紹介した。無名の作家大池を励まし、時に厳しく批評するそれらの書簡から、二人の人間の交友の深さが伝わってくる企画展となった。また、書簡の内容を活字にした展示図録も作成。					観覧者:854人
129	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/11	仙台文学館	139	139	市指定管理料 139
	文学館あての年賀状を広く一般から募集して展示するとともに、文学館で所蔵している文学者の年賀状(複製)などを広く展示紹介した。					観覧者:4,064人
130	企画展「井上ひさし資料特集展vol.4」	2/7～4/19	仙台文学館	662	662	市指定管理料 662
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する特集展。今回は「方言」をテーマにした作品を取り上げ、創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどった。また川西町の暹筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介した。					観覧者:831人
131	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,293	2,293	市指定管理料 2,293
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。また、収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した管理を行った。					
132	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	682	682	市指定管理料 682
	平成27年春の特別展「北杜夫-どくとるマンボウの生涯」の準備を進めた。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介した。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

133	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	335,448	335,448	市指定管理料 335,448
<p>平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その3年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化した。</p> <p>(2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指した。</p> <p>(3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化した。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の利用促進につながる施設紹介事業を行った。 ①ガス局との共催による料理教室 ②ホール見学会</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置を継続して行った。</p> <p>(6)震災を教訓に、より実践的に対処できる防災体制を構築し、環境に配慮した各種施策に努めた。</p> <p>(7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともにを行った。</p> <p>(8)当財団自主事業のチケットを販売、PR等を積極的に行った。</p> <p>(9)利用者の要望に応え、館内8か所に温水洗浄便座を設置した。</p>						
<p>年間利用者: 336,193人 収益事業を含む</p>						

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

134	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	イズミティ21	121,821	120,744	市指定管理料 120,744
<p>「仙台市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成22年度から5年間の指定管理を受け、5年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設を目指、施設利用や公演実施に関する利用者からの相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。</p> <p>(2)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて可能な範囲で弾力的に対応し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。</p> <p>(3)施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制を整備し、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。</p> <p>(4)イズミティ21を活性化させる事業として、プレイガイド事業、ロビーイベント、ホール見学会、ピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー展示、宝塚歌劇仙台公演でのロビーコンサート、寄席等を行った。</p> <p>(5)当財団自主事業のチケットを販売、PR等を積極的に行った。</p> <p>なお、同グループで平成27年度から5年間の次期指定管理者の指定に応募し、厳しい競争の末、これまでの実績が高く評価され、指定を受けることができた。</p>						
<p>収益事業を含む 年間利用者: 286,051人</p>						

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

135	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	553,860	553,860	市指定管理料 553,860
<p>平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その3年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通りに面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めた。特に平成26年度は27年3月に開催された国連防災世界会議の展示会場の一つとして、様々な行事が予定されたことから、関係部署と連携を密にして設備等の点検及び修繕に力を入れ、開催に向けて対応を行った。</p> <p>(2)メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。</p> <p>(3)震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進めた。</p> <p>(4)博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担った。さらに、学校との連携を図りながら、次世代の育成にも取り組んだ。</p>						
<p>年間利用者:447,536人 収益事業を含む</p>						
136	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	8,121	8,121	市指定管理料 8121
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。</p>						
<p>配架本数449本 smtコレクション51タイトル</p>						